



平成15年度中間調査報告

理事長 齋藤 謹也



平成15年11月5日より12日ネパール調査報告です。

(1) 現地治安状況の把握

- ・ヌルブ・ラマ氏（全工程案内、現地責任者）の話
- ・神保氏（ネパールの風）事務所兼宿舍訪問
- ・ネパール大使館訪問、公使及び担当官と面会
- ・マズワニ村役場一部屋根爆破現場を見学
- ・シリ・スンディ小学校マオ派赤字落書きによる警告文
- ・タンセン、教育関係者（10名）と面談
- ・タンセン-ポカラ間の警察署の全署員が逃亡（3ヶ所）、検問の強

化、宿舍を背に常時銃をかまえている軍隊を見る。

- ・パイワラポカラ空港カトマンドゥ空港の厳戒態勢
- ・カトマンドゥパドマカニヤ女子校の現状給料2ヶ月間遅延、経常維持費が国よりこない、治安対策最優先の為）等

以上の視察、面談を通じ、かなりマオイストの浸透ぶりがうかがえ、国民は漠然とした不安感、脅威感を身近に抱いているようである。ただ、外国人旅行者はアメリカ人以外は現在のところ目標としていないようである。トレッキングにおいても、入山料（外国人1000Rp、ガイド



200Rp、ポーター100Rp)を支払えば安全を保障されるという（アンナプルナ山郡に500人のマオ派入山）欧州人（ドイツ、フランス等）の老人旅行者が目立っている。日本人は少なくなっているようである。（但し往復便は満席）ルンビニ地区は特に公園西部が危ないようでカピラ城付近にはいけない状況（従ってユネスコ開発は、当初の公園西部地域の建設予定が東部地区に移動して行われている。

(2) コミュニティーセンター現状調査

当初予定していたマズワニ村村役場周辺については、ユネスコによる成人学校（野菜栽培指導など）校舎建設、郵便局建設基盤整備、トイレ建設予定地などがすすみだしている為、会見したマズワニ村村長も当方の計画については興味を示さず、従って無理と判断した。次に予定を街道沿いのスンディ小に変更して調査したが、残念ながら学校休校の為校長等とは会えず、今後ラマ氏が一週間後再訪して調整するとのこと。マオイストの赤字の文章が校舎に書かれてい

る状況からして（手直しすると報復をうける）管理人の配置を含めてルンビニ地区へのコミュニティセンター設置は時期尚早ではないかとの印象です。但しラマ氏と村当局の話し合い

による調整を待つて理事会において判断する必要性があると思われる。

(3) 教育研修の現状調査

マズワニ小・中学校、ルンビニ小学校、シリ・シリ・ラム小学校を訪問し、教員生徒と若干の触れ合いをする。又、他の既成援助校も訪問（但し休日の為休校）、全体の意見再確認はできず、タンセン地区研修についてはセン小学校校長モホン氏とも会見したが、受け入れ姿勢については変化なし。タンセン地区についていつもの宿舎でなく街の中にあるホワイトレイクホテルに実際に宿泊してみた。日本人観光客には無理そうであるが、現地にとっては良いホテルといえるようである。ルンビニは午後8時、タンセンは午後9時以降外出禁止。

(4) シリ・ジャナ・ジョーディ小学校視察

今回の視察ではカピラ城周辺危険の為行けず。

- ・マズワニ村役場グタバウル村役場シブワ村役場同時爆破（約半月前）
- ・マオイスト寄付要求、教員には1ヶ月分の内一日分給与徴収。カピラ城周辺には全く入れない状況との報告。公園南部であるが、ルンビニ県アダルサ村のアマリ小学校より支援要請、既存校舎1棟、5教室1職員棟が希望であるが、とにかく少しでも建設して欲しいとの熱い要望を寄す。



全くカーストの低い貧しい村の為建設が出来ず、国の援助もない。子ども達は青空教室が常態であり、就学率は三割程度である。ほぼ公園東部地区の学校支援は山を越しているため、是非とも南部のインド国境に近い村の教育支援をと要望される。必要と判断されるが援助地域の拡大については今後検討されなければならない。

他に公園南西部街道隣接のパラリア小学校を見学。校長は元マズワニ小学校校長であり、生徒数約150人、教師4人、既存校舎2教室の雨漏り修復工事をして欲しいとの要望を受ける。以前より当会と接触を望んでいたとの事。

(5) その他の支援等の確認

(イ) 図書等支援各校別配分金の検討

タンセン地区はトリヴァン大学タンセン校学長をはじめ、教育関係者との会合の際、例年と同様にリクエストを出すように当初より要望。トリヴァン大学タンセン分校の新旧学長より発電機を要望される。（後日カトマンドゥで調査、6000W30万円の予算が必要）学生の増加（在籍3000人）もあり朝6時から夕方7時まで授業。朝夕の電力不足による停電もあり、困難をきたしているとの話があり、2-3年分をまとめてでよいから是非とも支援をとの強い要望があった。必要性は高いと判断している（学長は9月に交代）

(ロ) 既支援校重点補修事業の確認

- ・シリ・マズワニ小東側校舎1教室分、かなりひどい亀裂、建設地に元埋め立て部分があり陥没したのではないかとこの事。
- ・シリ・シリ・ラム小・中学校校舎建設と聞いていた2教室は未だ認可されず卒業生はマズワニ中学校へ進学。
- ・記念植樹は育っていない。

(八) 保健センター支援内容制服購入の件

保健センター支援については今回の調査では要望等確認できませんでした。(村長が葬儀に参加の為面談は小時間)マズワニ中学校の制服は1年生分依頼しました。



マズワニ中第一期生の三年生は皆体も大きくなり随分成長したように思われる。マズワニ中学のこの地区での重要性はますます高くなっているように感じられた。すっかり定着しているようである。

(二) 写真展実施の確認

実施は可能と思われますが、今回の中間調査では確認出来ていません。

(6) ラマ氏結婚式日程の確認

(7) その他の特記事項

- ・水害によるポカラ-カトマンドゥ間は陸路では12時間かかる。
- ・マオイストとの調整が難しく、派の要求もよく分かっていない現状である。
- ・シマルの木、ホタルの木をみる。約4ヶ月間ホタルは見られるとの事で、数は少なかったがホタルを確認することが出来ました。
- ・ルンビニ全体の高級ホテルにマオイストは100万円を要求。
- ・マズワニ中学校の運営委員会理事長マイトリ上人がユネスコ施設誘致に深く関与している模様。マイトリ上人が作ったオフィス2-3棟が爆破された。
- ・ある1校でサッカーボール等を子ども達で使って欲しいと校長に渡した事があり、それは翌日市場で売られていた事があるとの情報。やはり子どもに直接渡さないといけないとの確認。